

第6回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第6回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 平成30年2月13日（火）午後1時半から午後3時
- 3 会場 東久留米市役所4階 庁議室
- 4 出席委員 石橋委員(副会長)、一木委員、伊藤委員、稲田委員、井上委員、大坪委員、大山委員、神谷委員、木村委員、田村委員、鶴岡委員（会長）、時任委員、栃谷委員、村上委員、森委員 以上15名
- 5 欠席委員 岡野委員、田野委員、増田委員、以上3名
- 6 事務局 傳介護福祉課長、林保健サービス係長（健康課長の代理出席）、廣瀬保険年金課長、森山主査、大川主任、
- 7 傍聴人 1名（その他、オブザーバー1名）
- 8 次第 第6回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
 - (1) 開会
 - (2) 配布資料の確認
 - (3) 議題
 - 議題1 平成29年度在宅療養相談窓口の実績について（報告）
 - 議題2 平成29年度多職種研修会の実績及び次年度に向けて
 - 議題3 在宅療養ガイドブックの作成について
 - 議題4 その他
 - 「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」の活用について
 - (4) 次年度委嘱期間満了（平成30年5月24日まで）について
 - ①委員推薦のお願い（平成30年5月下旬頃）
 - ②協議会検討内容の引き継ぎのお願い
 - (6) 閉会
- 9 配布資料
 - 【資料1】 平成29年度東久留米市在宅療養相談窓口 実績報告
 - 【資料2-1】 平成29年度多職種研修会実施報告
 - 【資料2-2】 <東京都事業>「暮らしの場における看取り支援事業」
 - 【資料3】 在宅療養ガイドブックの作成について

【資料4】 在宅療養ガイドブック次回作成案について

【資料5】 「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」の活用について

10 第6回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催

(1) 出欠席者等の確認

・出席者 名、欠席者3名。定足数に達しており会議は成立

(2) 配布資料の確認

(3) 議 題 (要点のみ筆記)

① 議題1 平成29年度在宅療養相談窓口の実績について(報告)

【会 長】 まずは、平成29年度在宅療養相談窓口の実績報告をお願いします。

【委 員】 (資料1を基に、在宅療養窓口から報告為省略)

【委 員】 入院相談は家族等が多いようだが、医師等からの相談はあるのか。

【委 員】 医師からの相談はないが、ケアマネジャーや家族からの相談である。

【委 員】 その方々に訪問診療医はいないのか。

【委 員】 既に訪問診療が入っている方もいるが、全く入っていない方やレスパイトの方もいる。

【会 長】 全体的に順調に件数が増えているが、この1年で何か心がけたことはあるのか。

【委 員】 今年度から市民の方々からの相談を受けるということで、より身近な窓口になったように感じる。ただ、市民の方々からの相談の場合、専門的に詳しくない状況で相談される方が多いので、ケアマネジャーなどの関係機関と連携することを心がけつつ対応している。

【会 長】 市民の方々に門戸を開いたので件数が増えているというとらえ方で良いか。

【委 員】 そのようにとらえている。

【委 員】 最後のアンケート(市内、近隣施設に対して「医療的管理を要する方の受け入れ状況に関するアンケート」)は記名か？

【委 員】 記名である。ケアマネジャーから受入れ先の相談等があった場合には、情報提供できるような形をとっている。

② 議題2 平成29年度多職種研修会の実績及び次年度に向けて

【会 長】 次に、平成29年度多職種研修会の実績及び次年度に向けてということある。3回の研修を実施したことについて、事務局より報告をお願いします。

【事務局】 資料2-1平成29年度在宅医療・介護連携推進協議会多職種研修会実施報告、テーマ「認知症ケアについて」。前回の協議会で一部ご報告したかと思うが、まとめて3回分報告させていただきたい。第1回が10/10、第2回が11/29、第3回が1/24で、

3回を通して認知症について検討する研修会を開催させていただいた。第1回は協議会の主催ということで第2回、第3回は東久留米市医師会との共催で開催させていただいたところが特徴である。それぞれの参加人数は、資料にあるように、第1回75名、第2回79名、第3回80名と、とても多くの方々に参加していただいた。参加していただいた方々の職種は資料にあるとおりである。職種により若干の偏りはありながらも、多くの方々に参加して頂けたという印象である。内容については「認知症のこと」ということで、第1回は事例検討で、前田病院の前田先生と富田先生が実際の事例を通してお話しいただいたことが、実例を伴っていて大変勉強になったと感想が多くあった。第2回のワールドカフェでは東久留米医師会の石橋会長の進行により実施し、顔の見える関係づくりが活発にできた会になった。第3回は山田病院の竹中先生に、アウトリーチ事業の事例をたくさん話していただき、実際にどのように利用者の方々から認知症の状況をヒアリングしていくかというような勉強も兼ねた研修になったというところで、とても効果的だったというアンケート結果もある。

テーマについては、平成28年7月にこの協議会で課題検討アンケートというのを実施し、一番多かったのが認知症疾患の理解と対応についてであったので、今年度のテーマにした。認知症については今年度第1回認知症初期集中支援チーム検討委員会が平成29年12月18日に立ち上がり、ここで様々な認知症対策について検討を行っていくということになっている。その検討委員会の中で、多職種の連携が必要な事項についてはこの協議会にも報告していきたいと思っているが、認知症についてはここで一定の区切りをつけてもいいかという考えもある。次年度に向けてであるが、アンケート結果で次に希望が多かった「摂食嚥下・栄養」「がん緩和ケア」や情報共有（内容やICTなどの伝達方法を含む）、そして看取りについてなどのテーマを検討していく必要があると事務局では考えている。

次に、多職種研修会の開催方法についてであるが、今年度参加の方々には少し偏りはあるが、その方々が参加しにくい時間帯などのご事情もあるので、それぞれの職種の方々からの意見を取り入れて、平成30年度は開催していく必要があるかと思われる。そこで事務局からの提案として、各委員の皆様には1-2の内容から取り上げたいテーマ・開催方法（時間帯や形式）等について、代表として出ている団体の方々へ持ち帰って意見を集約していただき、来年度の開催方法や時間帯などについて意見を募っていただけるとありがたいと思う。平成29年は本協議会と東久留米

医師会と共催したように、各委員の所属団体と共催して開催していく方法もとても良かったと思うので、そういう方法も視野に入れて検討いただければありがたい。次回協議会で、その内容をご提案いただきたい。

【会長】 それでは3回の研修会に参加された委員の方々からそれぞれ研修会の感想やコメントをいただきたい。

【委員】 ファシリテーターとして参加させていただいたが、先に講義を聞いてのグループワークなので具体的に困った事例などを出しやすく良かった。職種によって温度差があるのを感じたが同じ場所で同じ学びをする事は今後も必要だと思う。

【委員】 地域活動栄養士会から出させていただいた。会員の方へお伝えしているが、なかなか夜間は出にくいようである。参加していて、とてもいい内容なので、食に関するテーマも取り上げないといけないと思うので活用していきたい。3回参加した中で、石橋先生のワールドカフェの実践方法が、とても身近に感じ共有化が早く図られたという感じがしたので、またぜひこのようなワールドカフェタイプの内容で検討していただきたいと思う。

【委員】 3回とも参加して様々な職種の方とそれぞれの仕事の立場でグループワークができて大変勉強になった。今後の仕事をしていく上で関係づくりも役立ったと思う。

【委員】 3回目だけ都合が合わず欠席した。委員会に出席した感想としては、1日目は講義の後のグループワークなので、少し時間が短く議論が深められなかったように思う。ワールドカフェ方式は時間が長かったので議論を深めていけたと思う。歯科医師会の先生方とも歯科医師は私1人だけだったので、来年度は歯科医師会から参加して頂ければと思っている。

【委員】 3回とも出席させていただきファシリテーターとして、緊張して臨んだ。ヘルパー事業所やデイサービス事業所の相談員さんなどと、普段接する機会があるが、現場の最前線で働いてらっしゃる方々にも、このような場に出席いただいて制度的なことや動向をしっかりと伝えることはよいことだと思う。実際の現場でのご苦労なども聞けたので参加できて良かった。

【委員】 多職種が一同に集まって顔を見える関係で話ができることは、今後の仕事にも繋がっていくと思われる。認知症初期集中支援チームは活用しやすくなるのではないかと感じた。

【委員】 1回しか参加できず残念であったが、グループワークは面白かったが、少し時間が足りないように感じた。訪問介護の方々にも参加の案内をしているが、なかなか難しい。時間帯等も検討いただきたい。

【委員】 3回ともファシリテーターとして参加した。3回目の認知症アウトリーチ事業の話の中で、特に事例がとても興味深かった。もう少しグループ全体で話ができ、他のグループの

話も聞けたら良いのではと思った。言語聴覚士は元々、市内に少ないので、このような場で接点のない方々や多職種の方々の仕事内容などを聞けることは貴重なことであり、有効的に活用していきたいと思う。

【委員】 ファシリテーターとして参加したが、グループワークの時間が短く、いつも中途半端で終わるという印象がある。グループワークをいかにうまく進めるかというのがファシリテーターの役割で、全ての方に話をさせていただくように努めているが、一人の人が集中的になってしまい、うまく進行できないことも多く、そういう時のタイミングが大変ではあるが、ワールドカフェでは、様々な職種の方の話が聞けて、顔の見える関係というのが素晴らしいと思ったので、今後も続けていただきたい。

【委員】 3回ともファシリテーターとして参加させていただいたが、2時間という勉強会は長いようで短く、とても中身のある内容で真剣に楽しく参加できた。認知症の方に限らず、現在の高齢化の現状や東久留米の地域性など楽しく身になる話を聞けた。介護職には身近なようで関係性が薄かった薬剤師の方の話も聞けて大変勉強になった。

【委員】 ファシリテーターとして参加した。ワールドカフェは限られた時間で話せる人数がグループワークより多いところが面白いと思った。もう少し慣れてくれば、より意見を引き出せることができると思う。ケアマネジャーをしているとドクターは雲の上の人というか敷居が高かったが、距離感が近くなったような会だったので、大変良かった。これからも続けていければと思う。

【委員】 皆さんの評価を聞いて、お役に立てたところも多かったように思います。今年度は2回医師会の方で協働したが、費用については東京都からいただいた資金を基に、医師会が受けた事業のため利用させていただいた。今後、同じような形で続けていくのかなどは、ご意見をいただいて、医師会として、どう対応していくか考えていきたい。ワールドカフェ形式、知識や情報を取集する講演会、その他シンポジウムなど、様々なやり方があるかと思う。そういうことを組み合わせることで、参加者の顔の見える関係、互いの気持ちを理解して、どのように動けば良いのかということに繋がるので、続けていければ良いと思う。

年に1回は少ないので、3回くらいできればいいかと思う。

医師が雲の上の存在と言われたが、東久留米は大きな病院がないため、余計に地域の先生方は身近な存在である。来年度は歯科医師の先生方にもご参加いただいて「口腔ケア・嚥下」の問題も非常に大きいのでそういうところも取り上げていただきたい。

【会長】 人数も回を重ねる毎に少しずつ増えていき、最初は一般的な多職種研修で、2回目はワールドカフェで、3回目はアウトリーチと毎回違うやり方で新鮮であった。グループワー

クでは想像力豊かなメンバーが、本気で考えるリアルな話し合いができた。栃木県下野市では、先月から多職種連携の勉強会が始まったが、他県の事例を取り上げており、地元の社会資源を考えながら、地元の事例を取り上げて話し合う方が、関係づくりもうまくいくのではと思った。素晴らしい意見や感想をいただいたので、事務局でまとめていただきたいと思う。このような意見をふまえて、次年度の多職種研修のことについても考えていきたいと思う。

【事務局】 多職種研修のテーマや形式、開催時間等について出てきた意見を所属の団体に持ち帰っていただいて、次回の協議会までに各団体の意見を集約していただきたい。

【委員】 何回くらい開催したいのか？

【事務局】 今年度の3回が適切ではないかと思う。初回が10月であったため、もう少しバランスよく3回に分けて開催できれば良かった。次回の協議会では、ある程度、テーマについて検討したい。

【委員】 時間帯やテーマについてアンケートと言われても難しい。

【事務局】 アンケート内容については書式を作成する。各団体の方々それぞれにアンケートを出していただいて集約するのは、やや厳しいところがあるので、各団体に1枚のアンケートをお願いしたいと思う。

【委員】 次回の協議会開催はいつか。

【事務局】 次回は、5月上旬から中旬頃を予定している。

【委員】 委員の中で、多職種研修会開催は、昼間の時間帯の方が都合がいいという団体はあるか。

【委員】 午後ですか。先生方が午後は難しいのでは。

【委員】 午後は難しい。今回は医師会主催が2回あったが、テーマによっては絶対に医師が出ないといけないという訳ではない。昼間の時間帯の方が多いのであれば、昼間や土曜日日曜日の昼間の時間帯などでもいいのではないか。

【事務局】 どの職種やどれだけの団体が昼間の時間帯いいのか。

【委員】 昼ということではなく、19時よりもう少し早い時間帯が良い。終わりが21時というのは遅いかと。

【委員】 18時～20時くらいか。

【委員】 その時間帯なら、研修会等にも参加している。18時～18時半始まりで部会も20時に終わるので、その時間帯なら参加しやすい。

【委員】 アンケートはやるのか。

【事務局】 はい、作成して各委員へ送らせていただく。それぞれの団体で検討していただいて、事

事務局に提出していただくという流れでどうか。

【会 長】 では、このような流れで進めたいと思う。他に質問、意見はないか。

続いて看取り研修について事務局より情報提供したいとのことである。

【事務局】 資料２－２東京都の事業「暮らしの場における看取り支援事業」についての報告と情報提供である。東京都で３つの看取り支援事業を実施しており、その中の②看取り研修の実施について、医師向けの研修と実践編研修とあるが、医師向けはそれぞれご案内がいており、既に研修を受けてくださっている医師の方々もおられる。実践編研修は在宅編と施設編に分かれており、これから実施していくということになっている。平成２９年度から３１年度までの３年間で全市区町村に実施していくとのことだが、平成２９年度は緩やかに始まっているようで、在宅編は３月くらいに申込みを募集するというようなことである。研修の周知があり次第、委員の方々に案内させていただくので検討いただきたい。施設向けについては、今年度は１２区市町村だけが受けているが、次年度に向けては東久留米市内にある施設にも案内していき、みんなで看取りの為に必要な勉強をしていけるよう積極的に研修への参加をお願いしたい。

【会 長】 看取り研修についての質問はあるか。ないようなので、続いて、議題３在宅療養ガイドブックの作成について、前回協議会で平成３０年度も継続していくとの合意が得られている。事務局より現在の状況や今後の進め方について説明を願いたい。

【事務局】 在宅療養ガイドブックについては、第５回協議会で意見をいただき次年度も継続して作成するという方向になっている。資料３で意見を抜粋して報告する。

- ①冊子を配布するだけでなく、説明の機会をもつことが大切
- ②インターネット上でも閲覧できること
- ③外に出て冊子を取りにいけない方に、手をとってもらう工夫が必要
- ④官民協働事業の作成スケジュールに縛られないこと
- ⑤予算を確保した作成方法
- ⑥広告を掲載するのであれば工夫が必要
- ⑦掲載内容のレイアウトなど、学生の力が活用できないかどうか

いただいた意見を鑑みてガイドブック作成に関する予算要求をしている状況である。前回ガイドブックは広告が１０ページ、中身が３０ページという構成だったが全４０ページを広告なし、オールカラー印刷Ａ４、WEB上でのデータを掲載できるようにということ、数量２万部で予算要求している。官民協働事業ではなく予算要求したところで作成するという形を本協議会で検討していきたい。２万部という部数は、高齢者世帯を大まかに

見込んだ数であり、実際に高齢者に直接手渡しで配布となると配布手数料が更にかかってしまうので、配布方法については検討が必要かと思われる為、2万部という数には縛られずに検討していきたい。この協議会でどういう冊子を作成していくかなどの協議ができるところまできている。今後の進め方については、①次回の掲載内容について各所属団体の意見を集約していただくこと、②その内容を掲載するのに必要なページ数の希望をだしていただくこと、③上記の項目について次回の協議会で報告していただくことを提案する。資料4では29年4月発行分と次回発行予定（案）構成内容等を記している。内容、形式等の比較検討に利用していただきたい。前回、広告により間違った情報が入ることがあるとの意見もあり、今回は広告の10ページを削除して代替できるものを検討するという事になった。介護福祉課が作成した「緊急情報シート」の活用も案として情報提供したい。会長より新宿区と立川市の資料も提供していただけるので回覧する。新宿区は支援機関用と区民配布用、立川市は地域ごとの地図など、形式も様々である。

【会 長】 立川市は官民協働で製薬会社のファイザーがMAP作りに関わっており、各高齢者世帯への配布やネットを介しても情報が見られるシステムを作成中である。

【事務局】 MAP活用の意見もいただいているので、そういったことも含めて冊子ができたらよいと考えている。

【会 長】 在宅療養ガイドブックの作成について、委員の方々から意見やコメントをいただきたい。

【委 員】 広告を入れない理由というのは、広告なのか案内なのかわからなくなるということと記憶しているが、冊子を見て、どこが内容で、どれが広告なのかわからないのが問題であり、予算の関係で入るようなら、広告は広告でわかるように入れるならば入れる必要があるかと思う。MAPについては、質問を受けた時に、MAPを見て、MAPの下に各関係機関の住所と電話番号がわかる一覧表のようなものがあるとよいと思う。

【委 員】 昨年の歯科医師会のページでは、実際に訪問診療をやっている歯科医療機関ではなく、歯科医師会全部のリストになっていたが、昨年末に歯科医師会で今後、訪問診療に対応する予定のある歯科医療機関で委員会を作るという形で進めていきたいと考えているが、冊子に掲載するまでに間に合うかどうかはわからない。

【委 員】 進捗状況はいかがか。

【委 員】 手をあげてくださる歯科医療機関はあるが、まだ具体的には進んでいない。

【委 員】 実際に訪問している利用者の家族が、改めて自分や家族が受けているサービスについて確認するなど利用されているようだが、最初に使い方の説明があり、次に事例（索引）等で利用者自身の状況でどのようなサービスが利用できるのかわかりやすく書いてあれば

よいという意見をいただいた。利用者やその家族がガイドブックを持っていることで、一緒に見る機会があり、説明もできるので、ツールとしては良い。

- 【委員】 管理栄養士としても、市民の方々に活用していただけるガイドブックができるよう模索、検討していきたい。
- 【委員】 認知症疾患医療センターについて、検査の流れや診断方法などの問い合わせがあり、もう少し詳しい内容にしてほしい。
- 【委員】 新宿区のように分厚い冊子になると逆に使い勝手が悪いように思う。持ち運びできるようなページ数で40ページがくらいがよいのではないか。概要的な部分だけで情報が少なくなってしまうということも考えられるが、載せきれない部分は個別相談ということにかなげるということにするなどが適切ではないか。
- 【委員】 “配布するだけでなく説明する機会をもつことが大切”と考える。冊子を渡す時に説明するように心がけているが、訪問先での冊子の有無や入手先や内容の理解度などを聞くには時間的に難しく、渡す時に説明は必要だと思う。インターネットで閲覧できて必要な情報だけを印刷して渡せることはよいと思う。高齢者には自宅から目的の機関を探す把握するのに、住所だけより地図を利用する方がわかりやすいと思う。
- 【委員】 緊急情報シートの掲載の案であるが、もしもの時に延命治療を希望するかなどがシンプルに組み込まれてあればよいと思う。内容的には詳しく載せてほしいというニーズもあるが、高齢者の方が見る時は、わかりやすく簡単な表示で、それ以上の情報は問い合わせという形で、問い合わせ先の表示を視覚的にわかりやすいように工夫する必要がある。
- 【委員】 延命治療というのは、エンディングノートやリビングウィルのようなもののことか。
- 【委員】 そういうのを、組み込むのもよいのではないかと考える。
- 【委員】 訪問介護の利用者の家で、ガイドブックを見たことがないため、どのように活用されているかわからない。活用されているのかどうか疑問に思う。高齢者に見やすくするのは字を大きくするなどの工夫は必要かと思う。
- 【委員】 他の職種の紹介などに利用している。使っていただくメリットを知っていただくためには内容が難しすぎないように、わかりやすく必要最低限の情報で、「詳しい内容は窓口へ」などの案内があればわかりやすいのではないか。見やすい地図は入っていればよいと思う。
- 【委員】 ガイドブックの案内はしたことはあるが、実際に利用者がガイドブックをもっていることはなかった。高齢で介護サービスを受けられる方には見にくく、内容も理解しにくいので、ご家族向けなのかと感じる。本人よりも家族がいろんなことを調べて見極めて手配を

するので家族向けに作成した方がよいのではないかと思います。

【委員】 わかりやすくコンパクトを心がけて作成した方がよいと思う。広告に関しては、他市町村の業者のものはいらぬのでは。

【委員】 家族向けが主になってくるのではないかと思います。緊急情報シートの活用は良いと思う。他に救急車の呼び方（薬手帳などの準備）なども案内できればよい。地図はわざわざ広げなくてもパッと開いて見える方がよい。

【委員】 どういうシステムで、どんなことができるのか、何のため、誰を対象とするのか考えて、わかりやすいガイドブックが基本である。新宿区のように、全部の医療機関、介護施設を掲載しなくても、名称と所在地がわかるような地図を入れる方法もある。ネットを使った情報では、北多摩北部地域には地域保健医療のデータベースがあるので、登録して活用するのもよい。（それぞれの施設の特徴なども掲載されている）在宅医療のデータベースと認知症のデータベースもあり、それぞれの詳細な内容の掲載できるようになっているので、医療機関、介護施設、事業所などが情報ネットワークとして活用するとよい。緊急情報シートに関しては災害対策の方でしっかりやっていただいて、そこで作っていただければ、この予算を使う必要はない。それよりも大きな字で見やすくわかりやすくするのが重要ではないか。

【委員】 10ページ増えると費用は上乘せになるのか。

【事務局】 予算の範囲内で作成する。部数を減らしてページ数を増やすなどの微調整は可能かと思う。

【委員】 校正費、作成費は見込んでいるのか。

【委員】 webデータはいただいている。

【委員】 PDFにしてサーバーを確保すれば、そこに作成費はあまりかからない。それよりも校正費や編集費用はどうなっているか。

【事務局】 一緒になっている。

【委員】 わかりやすくおおきな字でということになるとページ数が増えてしまうため、少し余裕をもって工夫しながら進めていけばよい。

【委員】 冊子の配布だけではなく説明をということであるが、マンションで介護福祉課事務局と説明会を開催した。結果はとても好評で、参加できなかった方のためにまたやってほしいというような意見もあり、内容についても質問されるなど活用されているようだ。活用されるためには、説明する機会を設けることが有効ではないかと思う。

【会長】 多くの意見をいただいた。見やすくわかりやすくという意見が共通で他市町村と比べる

とボリューム的にもよいということに進んでいくのではないかと思う。地図の挿入や氾濫している情報を上手くガイドできるような表示形式（問い合わせ窓口、索引、事例）など工夫する必要がある。学生の力の活用では、社会事業大学・国立看護大学校・明治薬科大学の3校の医療福祉系の単科大学で構成されている合同サークルがあり、その学生たちデザインや構成に協力していただけるように話は進めていきたい。

次に、議題4「入院時地域情報連携シート」事業開始について事務局より説明願いたい。

【事務局】 資料5「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」の活用について(依頼)より。

前回の協議会でも委員からお話いただいた「地域連携情報シート」は5市の圏域での入院時の共通の情報シートを作成することになるという案内をさせていただいたが、実際に活用が始まったという報告である。1月のケアマネジャー部会の連絡会で、この資料を使い報告させていただいた。添付している情報シートを記入して、医療機関の窓口ケアマネジャーから直接又はFAX等で提出していただくという流れが、既に始まっている。今までもケアマネジャーは情報シートを記入し書類として提出していただいていたが、病院の窓口がバラバラであったり、受け取ってもらえなかったりということもあったが、保健所にご尽力いただいて5市の病院窓口を統一していただいたことにより、患者が入院した直接の担当者のところまでしっかり繋いでいただけることになる。シートはホームページからダウンロードできる。医療機関一覧表についてはホームページ掲載の許可を取らないので紙ベースで報告した。

【委員】 11月に保健所の方で、各40病院の窓口へシートの活用依頼とデータをCD-Rにコピーしたものを送付している状況で、周知に関しては十分ではないが今月21日の北多摩北部病養連携会議で、シートの活用の仕方について情報提供させていただく。また、定期的に利用状況等も調査していきたい。

(4) 次年度委嘱期間満了について

【会長】 次に、次第4の次年度に向けて事務局より説明願いたい。

【事務局】 次第4「次年度へ向けて 委嘱期間満了について」である。委員の皆様には、平成28年5月25日より平成30年5月24日までの2年間、協議会委員を委嘱させていただいている。これは、東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱にて、「委員の任期は2年とする」とされていることが根拠となっている。本日の議題2・3について各所属団体のご意見等を集約していただき、次回の協議会に報告・提案いただくこともあり、皆様の委嘱期間である5月24日までに次回協議会を開催したいと考えている。各所属団体の

会長職がこの協議会委員のあて職になっているなどの場合、会長職は年度での交代もあるとは承知しているが、次回協議会まで現委員の皆様の参加をお願いしたい。

続いて「① 委員推薦のお願い」である。次期東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会委員の推薦について、年度が明けてからにはなるが、各所属団体へお願いの通知をさせていただき予定である。次期協議会委員の委嘱期間は30年6月から2年間、新しい委員での最初の協議会は8月を予定している。

「② 協議会検討内容の引き継ぎのお願い」である。今までの協議会の様子や多職種研修、ガイドブックの検討を行いつつ、次期協議会委員に推薦していただける方を決めただけだと、次期協議会のスタートから活発な議論が可能と考えている。また、設置要綱では、「再任を妨げない」となっているので、そこも含みおきいただければと思う。

(5) 閉会

【会 長】 質問がなければ、これを以って、第6回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を閉会させていただく。来年度に向けて、3つの議題、「多職種研修の件」「ガイドブックの件」「次期委員の推薦の件」について、各所属団体で検討していただきたい。今回は5月上旬となるが、具体的日程については事務局より改めて連絡がある。

以上